



みどりの風

平成26年4月7日発行
校報 第507号
〔みどりの風 第50号〕
練馬区立関町北小学校

お子様のご入学・ご進級おめでとうございます

校長 大野 泰弘

お子様のご入学、ご進級、おめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。3月には138名の卒業生が喜びと希望を胸に抱いて本校を巣立ちました。そして、今日は笑顔いっぱいの1年生78名と12名の転入生を迎えて、全18学級、全校児童581名(4月4日現在)の子どもたちと共に、今年度の第一歩を飾ることができました。先週4日には、最高学年の初仕事として、新6年生の子どもたちが一所懸命に教室移動や入学式準備などの活動をすすめてくれました。毎年、新6年生の子どもたちが示す真摯な態度には大きな期待を寄せることができ、頼もしく感じられます。

しきしま やまごころ ひとと あさひ にほ やまざくらばな
敷島の大和心を人問はば 朝日に匂ふ山桜花 - 本居宣長 -

これは、私が高校時代に古典の学習の折りに暗唱した本居宣長の和歌です。その古典の先生は、「その昔、日本人が『花』と言えば、『山桜』のことを指していました。それだけ、今昔を問わず、日本人の心に占める桜のイメージには強いものがあったのです。」とおっしゃっていました。

今冬の東京地方には45年ぶりという大雪が降りましたが、それでも桜の木は、冬の寒さに耐え、3月下旬から先週末にかけて、ソメイヨシノもオオシマザクラも美しい姿を届けてくれました。私は、大勢の人々が集まる場所でのいわゆる「お花見」はあまり好きではありません。静かな場所で花びらが風に舞うのを眺めたり、月の光に映える桜の花を見たりしている方が、どこか風情を感じられるからです。それは、桜の花のもっている気品や優雅さ、決して華美ではない淡い色合いや仄かな香り、桜の花が醸し出す「もののあはれ」、美しく咲いてなお散る時を知る潔さ……にふれられるからでしょうか。

さて、そんな日本人が大好きな桜の花が満開の中で、平成26年度が始まりました。桜の花が、関町北小学校の今年度の出発を祝ってくれているようにも感じられました。

また、今年度は昨年度のような多くの教職員の異動ではございませんが、別紙にもございますように、これまで本校の教育活動の充実のために努力してきた教職員の退職・異動があり、それぞれ新しい任地に赴きました。そして、他校での豊かな経験をもった教員や学校を支える職員を迎えての新年度の船出となりました。縁があって本校で勤務することになったからには、子どもたちのために一層努力してくれることを期待してやみません。

ところで、今年一月に、「発表/発信」・「発案/発想」・「發揮/發展」を意識して教育活動をすすめていきたいとお伝えしました。ご案内のように、今年度本校では、東京都教育委員会言語能力向上拠点校としての3年間の活動のまとめとなる研究発表会を開催いたします。そして、ささやかではありますが、開校55周年を記念する集会も実施することにしております。これらの活動はすべて「發」につながるものであると考えています。そして、その教育活動を支える6つの柱である、

- 開かれた関北 - 連携を深め、子どもたちの夢を育むために -
- 共生の関北 - 豊かな心と絆を育むために -
- 学びの関北 - 学び方や学ぶ楽しさを体得するために -
- 健康安全の関北 - 心にたくましさや安心感を育むために -
- 環境の関北 - 心がより潤うために -
- 教師力&組織力の関北 - 将来の練馬&東京を支えるために -

については変更することなく、内容面に修正を加えながら取り組んでまいりたいと考えております。

今後、各学年の保護者会の折りに、今年度本校の教育活動の概要についてお伝えすることにしてありますが、本校に通う子どもたちのために、引き続き、皆様の力強いご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。